

学名の意味

水族館のラベルには和名の下にアルファベットでも名前が書かれています。

なにを意味しているのでしょうか？

例としてギンガメアジのラベルを見てみましょう。「ギンガメアジ」という名前の下に、「*Caranx sexfasciatus*」と書かれています。

これは学名という、世界中で通じる名前です。「属名」+「種小名」という構成になっています。たとえばギンガメアジの場合、属名は*Caranx*、種小名は*sexfasciatus*ということになります。このように属名と種小名のセットで名前を表わす方法は「二名法」と呼ばれています。

属名は生物の名字のようなもの、種小名は名前のようなものですが、種小名だけを表記することはまずありません。これは、「属が異なれば、同じ種小名をもちいることが認められている」ため、種小名だけだといずれの生物を指しているのか不明確になるからです。

学名には様々な決まりがあり、動物・植物・細菌のそれぞれに、「国際命名規約」で決められています。なお、動物・植物・細菌それぞれで多少決まりが異なるため、ここでは動物に関する決まりを紹介しています。

学名にはラテン語を用いますが、他の言語をラテン語化して使用することができるので、学名が日本語に由来している場合などもたくさんあります。時々、種小名がsp.となっていることがあります。これは、まだ学名が付いていない種である、または種までは同定できなかった、のどちらかです。



ギンガメアジ
Caranx sexfasciatus
Quoy and Gaimard, 1824



サクラダイ
Sacura margaritacea
(Hilgendorf, 1879)

属名の*Sacura*は和名の「サクラダイ」に由来している
*margaritacea*は「真珠のような」という意味

シロギス
Sillago japonica
Temminck and Schlegel, 1842

種小名の*japonica*は「日本の」という意味で、日本で採集された生物に付けられている場合が多い

アミコケムシ科の一種
Iodictyum sp.

この場合、少なくとも*Iodictyum*属であることまではわかっている、という意味になる